

生きものの分類と各部の名称

.....	4-7
魚類	
スナヤツメ類、ニホンウナギ、タウナギ	B, 80
ゲンゴロウブナ、ギンブナ、キンブナ	A, 80
コイ、カネヒラ、アブラボテ	10, 81
ヤリタナゴ、タナゴ、タビラ類	11, 81
イチモンジタナゴ、タイリクバラタナゴ、カセトゲタナゴ	12, 82
タナゴ類の見分け方	13
オイカワ、カワムツ、ヌマムツ	14, 82
アブラハヤ、タカハヤ、ウグイ	15, 83
ニゴイ、モツゴ、シナイモツゴ	16, 83
タモロコ、スズモロコ、イトモロコ	17, 84
カワバタモロコ、ムギツツ、ビワヒガイ	18, 84
カマツカ、ツチフキ、セゼラ	19, 85
ドジョウ、カラドジョウ、ホトケドジョウ	20, 85
シマドジョウ類、代表的なシマドジョウ類	21, 86
ギギ、ギバチ、オマズ	22, 86
アカザ、ドンコ、ヌマチチブ	23, 86-87
トウヨシノボリ、カワヨシノボリ	24-25, 87
ヨシノボリ類の見分け方	24-25
ウキゴリ、ジュズカケハゼ類、ゴクラクハゼ	26, 87
カジカ類、オオクチバス、ブルーギル	27, 88
カムルチー、カダヤシ	28, 88
カダヤシ・グッピー・メダカの見分け方	28
ミナミメダカ、キタノメダカ、2種のメダカの分布図	29, 88-89

両生類

ニホンアマガエル、アマガエルの体色のいろいろ、シュレーゲルアオガエル	30, 89
ニホンアカガエル、ツチガエル、ヌマガエル	31, 89-90
トノサマガエル、トウキョウダルマガエル、ウシガエル	32, 90
オダマジャワシの見分け方	33
アカハライモリ、小型サンショウウオ	34, 90-91

水生昆虫

水生甲虫類のいろいろ(実物大)	35
ゲンゴボウ、クロゲンゴボウ、ハイロゲンゴボウ	36, 91
シマゲンゴボウ、マルガタゲンゴボウ、ヒメゲンゴボウ	37, 91-92
コシマゲンゴボウ、ガムシ、コガタガムシ	38, 92
コガムシ、ヒメガムシ、マメガムシ	39, 92-93
オオミズスマシ、コガシラミズムシ、イネミズズムシ	40, 93
ゲンゴボタル、ヘイケボタル	41, 93
ホドリの見分け方	41
水生カメムシ類のいろいろ(実物大)	42
タガメ、コオイムシ、ナベバタムシ	43, 94
タイコウチ、ミズカマキリ、シヤマエンボ	44, 94
オオアメンボ、アメンボ、ヒメアメンボ	45, 95
マツモムシ、コマツモムシ、コミズムシ	46, 95

甲殻類

テナガエビ	47, 96
テナガエビ類の見分け方	47

スジエビ、ヌマエビ、ミナミヌマエビ	48, 96
小型エビ類の見分け方	49
サワガニ、モクズガニ、アメリカザリガニ	50, 96-97
カワエビ、ホウネンエビ、カイエビ類	51, 97

貝類

二枚貝のいろいろ トンガリササノガイ、イシガイ、マツカサガイ、カラスガイ、ドブガイ、マシジミ、ドブシジミ	52-53, 97-98
巻貝のいろいろ(実物大) タニシ類、スミリンゴガイ、モノアラガイ、サカマキガイ、カワニナ、ヒラマキミズマイマイ	54, 98-99

トンボ目

トンボの見分け方	55
イトトンボ類の見分け方	56
ハロトンボ、ニホンカワトンボ、アサヒナカワトンボ	57, 99-100
オオアイトトンボ、ホソミオツネトンボ、モノサシトンボ	58, 100
キイトンボ、アジアイトトンボ、オオモンイトトンボ	58, 100-101
ホミイトンボ、クロイトトンボ、オオイトトンボ	60, 101
カトリヤンマ、ギンヤンマ、コサナエ	61, 101-102
ヤマサナエ、コオニヤンマ、オニヤンマ	62, 102
オオヤマトンボ	63, 102
オニヤンマに似たトンボの見分け方	63
シオヤマトンボ、シオカラトンボ、オシオシカラトンボ	64, 103

コフネトンボ、ハラビロトンボ、コシアキトンボ	65, 103
シオカコトンボの仲間の見分け方	66
ショウジョウトンボ、ハッチョウトンボ、ウスバキトンボ	67, 104
アキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネ	68, 104
ノシメトンボ、コノシメトンボ、ミヤマアカネ	69, 105
アトトンボの仲間の見分け方	70

バッタ目

ヒメグス、クサキリ、ウスイロササキリ	71, 105
エンマコオロギ、ツツレサセオロギ、ハラオカメオロギ	72, 106
ヤチヌズ、ケラ、ハラヒシバッタ	73, 106
トゲヒシバッタ、オンブバッタ、ショウリュウバッタ	74, 107
ツチイナゴ、コバネイナゴ、トノサマバッタ	75, 107

クモ類

ニセアカムネグモ、セズアカムネグモ、ヤホシヒメグモ	76, 108
キツクキコモリグモ、イナダハリグモ、モリグモ、キバラコモリグモ	77, 108
ナガコガネグモ、ナカムラオニグモ、ドヨウオニグモ	78, 109
ヨツボシヒメナシナグモ、トガリアシナグモ、ヤサガタアシナグモ	79, 109

外来種

注意が必要な田んぼまわりの外来種	110-111
------------------	---------

イチモンジタナゴ

絶滅危惧 IA 類 解説 ▶ 82 頁

- コイ科 ●体長：8cm ●繁殖期：4月～8月
- 分布：本州（濃尾平野と近畿地方）・岡山平野・四国・熊本県江津湖



▲肩の斑と体側の有色線がつながる

タイリクバラタナゴ

要注意外来生物 解説 ▶ 82 頁

- コイ科 ●体長：8cm ●繁殖期：3月～9月
- 分布：北海道・本州・四国・九州

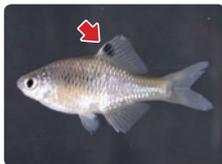


▲タイリクバラタナゴの腹鰭は前縁が銀白

カゼトゲタナゴ

絶滅危惧 IB 類 解説 ▶ 82 頁

- コイ科 ●体長：5cm ●繁殖期：3月～9月
- 分布：九州（北部）



▲幼魚や雌では背鰭に黒点がある

タナゴ類の見分け方

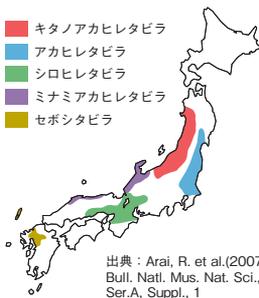
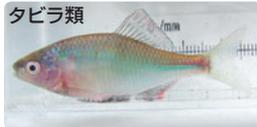


目立つ口ひげあり



体側の有色線あり

タビラ類



体色の有色線なし

体色は銀白色。雄の婚姻色[※]は赤色味を帯びる

ヤリタナゴ



体色は黄褐色。雄の婚姻色[※]はくすんだオレンジ色

アブラボテ

口ひげはないか
ほとんど目立たない

体高が低い

体側を走る有色線は肩部の斑につながる

イチモンジタナゴ



体側を走る有色線は肩部の斑につながる

タナゴ



体高が高い

肩部に逆三角形の黒斑がある。雄の婚姻色[※]では背鰭全体が桃色

カネヒラ



肩部に明瞭な黒斑はない。雄の婚姻色[※]では背鰭の一部が赤い。体側の有色線は背鰭前端をこえない

タイリクバラタナゴ



カムルチー

要注意外来生物 解説▶88頁

- タイワンドジョウ科
- 体長：85cm
- 繁殖期：5～8月
- 分布：本州～九州



▲稚魚

カダヤシ

特定外来生物 解説▶88頁

- カダヤシ科
- 体長：5cm
- 繁殖期：3～10月
- 分布：本州～琉球列島

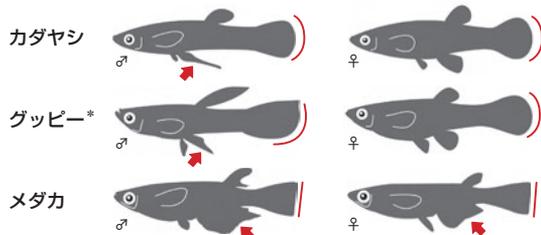


▲腎鱭。雄の腎鱭は棒状で、交尾器となっている

青字はもともと分布していなかった場所へ新たに移入した地域

カダヤシ、グッピー、メダカの見分け方

背鱭、腎鱭、尾鱭の配置や大きさ、形などで区別する



*グッピーの解説は112頁を参照

ミナミメダカ

絶滅危惧Ⅱ類 解説▶88頁

- メダカ科
- 体長：3cm
- 繁殖期：4～10月
- 分布：本州～琉球列島

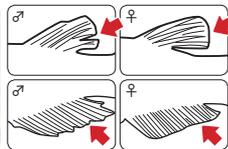


▲2種のメダカの雄の背鱭。キタノメダカ(左)より、ミナミメダカ(右)の方の切れ込みが深い

キタノメダカ

絶滅危惧Ⅱ類 解説▶89頁

- メダカ科
- 体長：3cm
- 繁殖期：5～8月
- 分布：本州(青森県・東北地方の日本海側・北陸地方から兵庫県北部)



▲背鱭(上)と腹鱭(下)。雄の腎鱭は雌より幅が広く、背鱭後部に切れこみがある



■キタノメダカは下北半島から奥入瀬川水系、阿武隈川水系、津軽半島から兵庫県円山川水系までの日本海側、などと佐渡に分布する。(左)

■ミナミメダカはそれ以外の本州・四国・九州と対馬、喜多岐、種子島、奄美大島、沖縄島、久米島などに分布する。

2種のメダカ**の分布図**

出典：Asai, T. et al. (2012) Ichthyol. Explor. Freshwaters, 22(4) より作成

水生カメムシ類のいろいろ (実物大)

解説 ▶ 94 ~ 95 頁

大～中型種



小型種

タガメ

絶滅危惧Ⅱ類 解説 ▶ 94 頁

- コオイムシ科 ●体長：45 ~ 70 mm ●繁殖期：6 ~ 7 月
- 分布：本州・四国・九州

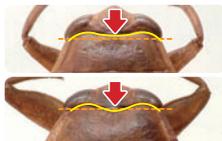


▲1 齢幼虫 (右下) と 3 齢幼虫 (左上)

コオイムシ

準絶滅危惧 解説 ▶ 94 頁

- コオイムシ科 ●体長：17 ~ 20 mm ●繁殖期：7 ~ 9 月
- 分布：北海道・本州・四国・九州



▲前胸背前線の中央 (矢印) が左右の前縁角を結んだ線より浅いのがコオイムシ (上)、深く溝入するのがオオコオイムシ (下)

ナベブタムシ

解説 ▶ 94 頁

- ナベブタムシ科 ●体長：9 ~ 10 mm ●出現期：ほぼ一年中
- 分布：本州・四国・九州 (北部)



■ヌマガエル

写真▶31頁

体は褐色で、肢をふくめて全体に長い円形をした、はっきりしないイボ状の突起をまとう。淡色の背中線をもつものが多い。体にぬめりがあり、腹面が白いことで、ツチガエルと区別できる。

■トノサマガエル

準絶滅危惧 写真▶32頁

体は淡褐色から茶褐色で、緑色の部分も広い。背面には暗色の斑紋と1対の背側線、1本の背中線がある。腹面は白い。鼻先がややとがり、肢が長く、脇腹や腿の斑紋がつながっていることで、トウキョウダルマガエルと区別できる。

■トウキョウダルマガエル

準絶滅危惧 写真▶32頁

体は淡褐色から茶褐色で、緑色の部分が広いものが多い。ふつう背側線と背中線があるが、ナゴヤダルマでは背中線のないものが多い。鼻先がやや丸く肢は短く、斑紋がそれぞれ独立していることで、トノサマガエルと区別できる。

■ウシガエル

特定外来生物 写真▶32頁

体の背面はうすい緑色の地色に茶褐色の大きな斑紋が多数あり、全体にまだら模様。腹面は黄色みのある白色で全体に暗色のまだら模様がある。1回に6千～4万個の卵を産む。幼生は1～2年かけて全長10cmになる。

■アカハライモリ

準絶滅危惧 写真▶34頁

体は暗褐色から黒色で、腹面にはよく目立つ赤いまだら模様があり、地域や個体によって大きさや形がちがう。雌は尾が細長く、雄は先の方まで幅広い。卵は一つずつ水草を折った隙間に産みつけられる。

■トウホクサンショウウオ

準絶滅危惧 写真▶34頁

体は黒っぽい暗褐色で、全体に青白い多数の微小な斑点でおおわれる。背面は茶色が強く、腹面は青みがある。田んぼ脇の溝など、ゆるい流れのある水域に産卵する。上陸した幼体はその後、林内で地表近くの物陰にひそむ。

■カスミサンショウウオ

絶滅危惧Ⅱ類 写真▶34頁

体は黒に近い暗褐色で、体をおおう微小な斑点はあまり目立たない。尾の背面側に黄土色の縁どりがあるものが多い。イモリにくらべてぬめりのある皮膚に見える。田んぼの脇にある溝などの止水で、春早く産卵する。

■ゲンゴロウ

絶滅危惧Ⅱ類 写真▶36頁

体は後ろで少しふくらんだ円形。背面はやや緑色をおびた黒色で、前胸と上翅に黄褐色の縁どりがある。腹面は全体に黄褐色で、中央部分に縦に長い円の黒色部分がある。雄は翅に光沢があり、雌は細かなしわがある。

■クロゲンゴロウ

準絶滅危惧 写真▶36頁

体は全身黒色で、雄雌とも光沢がある。中脚の一部や後脚の腿節に赤褐色部分がある。生きている時は上翅の先端あたりに1対の小さな赤褐色の点が見える。体の大きさ全身が黒いことで他の種とはっきりと区別できる。

■ハイロゲンゴロウ

写真▶36頁

体は灰色をおびた黄褐色で、腹面は赤褐色。頭部や前胸、上翅に黒い斑紋がある。上翅は黒い点状の筋がはっきり見え、黒い斑紋は中央部の側縁に1対、そのやや後ろに左右3列、先端部に1対ある。

■シマゲンゴロウ

準絶滅危惧 写真▶37頁

体は全体に黒色で、黄褐色の斑紋や筋があり、腹面は赤褐色。頭部の前方や前胸後方は黄褐色で、上翅には前方中央に1対の黄褐色の斑紋、側方に2対の黄褐色の筋がある。この筋模様で他の種と区別できる。

■マルガタゲンゴロウ

絶滅危惧Ⅱ類 写真▶37頁

体はほかの種よりやや幅があり、全体に暗褐色。頭部は黒く、口元や後頭部には黄褐色の部分がある。前胸は黒いが、中央部分は帯状に黄褐色。上翅は全体がとても小さな粒状の模様でおおわれている。